

ると考えられる。

7. むすび

本例は、ある一定の総観的条件の中で、山岳が力学的に、また熱源あるいは冷源としても作用して、山岳の周囲に小規模ないし中規模じょう乱を生成し、これらが一定の仕組みで相互に作用し合って、一定の地域に集中的な対流活動を発達させ得ることを示している。

大山の北東部山麓地帯は、鳥取県の中でも比較的降水量の多い地域である。5節で述べたような考察ができるのであれば、過去の大雨の中にも、この考察と同じ機構によるものが幾つかあるはずである。これについては、さらに調査して立証しなくてはならないが、対流雲の発達に及ぼす大山の地形効果を解明するために、それ自体をテーマとした稠密な観測網の展開が望まれる。

この解析は、「山陰地方に顕著な気象現象をもたらしたメソじょう乱の解析的研究」の一部として、昭和50年度日本気象学会奨励金により行なったものである。

謝 辞

この研究に対して、ご激励いただいた日本気象学会、川鍋安次潮岬測候所長、ご指導いただいた後藤大喜夫金沢地方気象台長、今田克大阪管区気象台予報課長ならびに大西慶市同調査課長、また、資料の提供を心よく引き受けていただいた航空自衛隊美保基地、広島・松江・鳥取各地方気象台に対し、記して謝意を表する。

文 献

Byers, H.R. and R.R. Braham, 1949: The thunderstorm, Washington, D.C., U.S. Govt. Printing Office, 287pp.

小平信彦・立平良三, 1972: 気象レーダ特集号, 気象研究ノート, 112, 171 pp. (第Ⅱ部気象レーダの利用, 第3章 § 3. 2, 3. 2. 2対流性エコーの移動を参照).

松本誠一, 1968: 寒冷うずの立体構造, 気象庁技術報告, 66, 60~69.

Matsumoto, S. and K. Ninomiya, 1971: On the mesoscale and medium scale structure of a cold front and the relevant vertical circulation, J. Met. Soc. Japan, 49, 648~661.

中山 章, 1968: 総観の立場からみた雲, 気象研究ノート, 96, 115pp.

Ninomiya, K., 1971: Mesoscale modification of synoptic situations from thunderstorms development as revealed by ATS-Ⅲ and aerological data, J. Appl. Met., 10, 1103~1121.

二宮洸三・秋山孝子, 1972: 大雨を伴う梅雨期のrain band, 梅雨末期集中豪雨プロジェクト速報, 気象研究所予報研究部, 18, 1~9.

Orville, H.D., 1968: Ambient wind effect on the initiation and development of cumulus clouds over mountains, J. Atmos. Soc., 25, 285~403.

武田尚之, 1976: 降ひょうについて, 昭和51年度大阪管区気象研究会誌.

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
月例会「長期予報・大気大循環」	昭和53年3月1日	日本気象学会	気象庁予報部会議室
月例会「レーダ気象」	昭和53年3月 <sup>10</sup> / <sub>6</sub> 日	日本気象学会	気象庁
日本気象学会 昭和53年総会・春季大会	昭和53年5月23日~25日	日本気象学会	気象庁
WMOシンポジウム「成層圏成分の変化に関する地球物理量的状態とその影響」	昭和53年9月26日~30日	国際気象機構 WMO	トロント(ヨーク大学)
第15回理工学における同位元素研究発表会	昭和53年6月27日~29日		国立教育会館